

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年8月10日

【四半期会計期間】 第111期第1四半期(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

【会社名】 株式会社千葉銀行

【英訳名】 The Chiba Bank, Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 佐久間 英利

【本店の所在の場所】 千葉市中央区千葉港1番2号

【電話番号】 (043)245局1111番(大代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画部長 篠崎 忠義

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋室町一丁目5番5号
株式会社千葉銀行 東京事務所

【電話番号】 (03)3270局8351番(代表)

【事務連絡者氏名】 東京事務所長 栗山 敬

【縦覧に供する場所】 株式会社千葉銀行 東京営業部
(東京都中央区日本橋室町一丁目5番5号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成27年度 第1四半期 連結累計期間 (自平成27年 4月1日 至平成27年 6月30日)	平成28年度 第1四半期 連結累計期間 (自平成28年 4月1日 至平成28年 6月30日)	平成27年度 (自平成27年 4月1日 至平成28年 3月31日)
経常収益	百万円	60,447	62,025	228,693
うち信託報酬	百万円	0	0	2
経常利益	百万円	26,131	26,582	85,556
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	17,704	18,464	
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円			55,444
四半期包括利益	百万円	25,007	11,462	
包括利益	百万円			29,153
純資産額	百万円	877,945	867,147	866,398
総資産額	百万円	13,525,580	13,839,863	13,333,858
1株当たり四半期純利益金額	円	21.26	22.63	
1株当たり当期純利益金額	円			67.03
潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	円	21.23	22.61	
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	円			66.96
自己資本比率	%	6.48	6.26	6.49
信託財産額	百万円	260	267	267

(注) 1. 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 第1四半期連結累計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。

3. 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末新株予約権 - (四半期)期末非支配株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。

4. 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係る信託財産額を記載しております。なお、連結会社のうち、該当する信託業務を営む会社は当行1社です。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更又は「事業等のリスク」に係る事項の発生はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、該当事項はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

業績の状況

（金融経済環境）

当第1四半期連結累計期間のわが国経済をかえりみますと、消費マインドに足踏みがみられるなか、個人消費はおおむね横ばいで推移したものの、設備投資に持ち直しの動きがみられたことや雇用・所得環境の改善が続いたことなどから、景気は緩やかな回復を続けました。

金融情勢をみますと、無担保コール翌日物金利は、今年2月に日銀が導入したマイナス金利政策の影響により0.05%～0.06%前後で推移しました。さらに、長期国債の流通利回りも0%を下回る水準となり期末には0.2%程度にまで下落しました。日経平均株価は、17,000円前後で推移していましたが、イギリスのEU離脱問題などの影響から期末には15,000円台半ばまで下落しました。

（経営成績）

このような金融経済環境のもと、当第1四半期連結累計期間の経営成績は次のとおりとなりました。

経常収益は、貸倒引当金戻入益などその他経常収益の増加を主因に、前年同期比15億78百万円増加し620億25百万円となりました。経常費用は、営業経費の増加を主因に、前年同期比11億26百万円増加し354億42百万円となりました。

これらの結果、経常利益は、前年同期比4億51百万円増加の265億82百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比7億59百万円増加し184億64百万円となりました。

（財政状態）

主要勘定の動きは、次のとおりとなりました。

預金は、さまざまな金融商品・サービスを品揃えし、給与振込や年金受取口座など家計のメインバンクとしてご利用いただくことを目指して活動してまいりましたことにより、当第1四半期連結会計期間末残高は前年度末比410億円増加し11兆1,684億円となりました。

貸出金は、法人・個人ともにお客さまのお借入のニーズに積極的にお応えしてまいりましたことにより、当第1四半期連結会計期間末残高は前年度末比794億円増加し8兆8,485億円となりました。また、有価証券の当第1四半期連結会計期間末残高は、前年度末比188億円減少し2兆4,368億円となりました。

これらの結果、総資産の当第1四半期連結会計期間末残高は、前年度末比5,060億円増加し13兆8,398億円となりました。

国内・海外別収支

当第1四半期連結累計期間におきまして、国内は、資金運用収支が前年同期比4億14百万円減少し351億67百万円、信託報酬が前年同期並みの0百万円、役務取引等収支が前年同期比1億40百万円減少し74億23百万円、特定取引収支が前年同期比4億1百万円増加し11億50百万円、その他業務収支が前年同期比4億54百万円増加し11億10百万円となりました。

海外は、資金運用収支が前年同期比21百万円減少し5億85百万円、役務取引等収支が前年同期比14百万円減少し17百万円、その他業務収支が前年同期比6百万円減少し44百万円となりました。

以上により、合計では、資金運用収支が前年同期比8億71百万円減少し314億65百万円、信託報酬が前年同期並みの0百万円、役務取引等収支が前年同期比1億66百万円減少し73億45百万円、特定取引収支が前年同期比4億1百万円増加し11億50百万円、その他業務収支が前年同期比4億48百万円増加し11億55百万円となりました。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第1四半期連結累計期間	35,581	606	3,851	32,336
	当第1四半期連結累計期間	35,167	585	4,287	31,465
うち資金運用収益	前第1四半期連結累計期間	38,064	1,893	4,023	35,934
	当第1四半期連結累計期間	37,517	2,046	4,508	35,055
うち資金調達費用	前第1四半期連結累計期間	2,483	1,286	172	3,597
	当第1四半期連結累計期間	2,350	1,461	220	3,590
信託報酬	前第1四半期連結累計期間	0			0
	当第1四半期連結累計期間	0			0
役務取引等収支	前第1四半期連結累計期間	7,564	2	49	7,511
	当第1四半期連結累計期間	7,423	17	61	7,345
うち役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	13,074	24	1,257	11,841
	当第1四半期連結累計期間	12,999	19	1,243	11,774
うち役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	5,510	27	1,207	4,330
	当第1四半期連結累計期間	5,575	36	1,182	4,428
特定取引収支	前第1四半期連結累計期間	749			749
	当第1四半期連結累計期間	1,150			1,150
うち特定取引収益	前第1四半期連結累計期間	808			808
	当第1四半期連結累計期間	1,150			1,150
うち特定取引費用	前第1四半期連結累計期間	59			59
	当第1四半期連結累計期間				
その他業務収支	前第1四半期連結累計期間	656	51		707
	当第1四半期連結累計期間	1,110	44		1,155
うちその他業務収益	前第1四半期連結累計期間	837	51		888
	当第1四半期連結累計期間	1,198	44		1,243
うちその他業務費用	前第1四半期連結累計期間	180			180
	当第1四半期連結累計期間	87			87

- (注) 1. 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び連結子会社であります。
2. 「海外」とは、当行の海外店であります。
3. 「資金調達費用」は、金銭の信託運用見合費用(前第1四半期連結累計期間4百万円、当第1四半期連結累計期間2百万円)を控除して表示しております。
4. 「相殺消去額」は、連結会社間の取引及び当行における国内と海外との資金貸借について相殺消去した金額を記載しております。

国内・海外別預金残高の状況
預金の種類別残高(未残)

種類	期別	国内	海外	相殺消去額	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第1四半期連結会計期間	10,624,442	278,918	13,623	10,889,737
	当第1四半期連結会計期間	10,899,224	282,788	13,583	11,168,429
うち流動性預金	前第1四半期連結会計期間	6,908,687	2,568	13,072	6,898,183
	当第1四半期連結会計期間	7,302,454	2,078	13,032	7,291,500
うち定期性預金	前第1四半期連結会計期間	3,443,722	276,349	550	3,719,522
	当第1四半期連結会計期間	3,339,302	280,710	550	3,619,462
うちその他	前第1四半期連結会計期間	272,032	0	0	272,031
	当第1四半期連結会計期間	257,467	0	1	257,465
譲渡性預金	前第1四半期連結会計期間	327,478	152,226	33,600	446,105
	当第1四半期連結会計期間	338,322	138,899	40,000	437,222
総合計	前第1四半期連結会計期間	10,951,921	431,145	47,223	11,335,842
	当第1四半期連結会計期間	11,237,547	421,688	53,583	11,605,651

- (注) 1. 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び連結子会社であります。
2. 「海外」とは、当行の海外店であります。
3. 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金
4. 定期性預金 = 定期預金
5. 「相殺消去額」には、連結会社間の預金取引について相殺消去した金額を記載しております。

国内・海外別貸出金残高の状況
業種別貸出状況(未残・構成比)

業種別	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	8,399,916	100.00	8,685,756	100.00
製造業	707,203	8.42	688,415	7.92
農業, 林業	9,317	0.11	9,411	0.11
漁業	1,037	0.01	1,160	0.01
鉱業, 採石業, 砂利採取業	9,936	0.12	15,280	0.18
建設業	299,958	3.57	285,259	3.28
電気・ガス・熱供給・水道業	32,778	0.39	43,126	0.50
情報通信業	51,612	0.62	36,404	0.42
運輸業, 郵便業	234,247	2.79	229,233	2.64
卸売業, 小売業	721,341	8.59	685,097	7.89
金融業, 保険業	378,711	4.51	378,338	4.36
不動産業, 物品賃貸業	2,072,168	24.67	2,293,298	26.40
医療, 福祉その他サービス業	478,229	5.69	501,028	5.77
国・地方公共団体	255,579	3.04	229,283	2.64
その他	3,147,799	37.47	3,290,417	37.88
海外及び特別国際金融取引勘定分	165,522	100.00	162,806	100.00
政府等				
金融機関	25,648	15.50	20,788	12.77
その他	139,873	84.50	142,017	87.23
合計	8,565,439		8,848,562	

(注) 1. 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び連結子会社であります。
2. 「海外」とは、当行の海外店であります。

「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務の状況

連結会社のうち、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づき信託業務を営む会社は、当行1社です。
信託財産の運用/受入状況(信託財産残高表/連結)

科目	資 産			
	前連結会計年度 (平成28年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
現金預け金	267	100.00	267	100.00
合計	267	100.00	267	100.00

科目	負 債			
	前連結会計年度 (平成28年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
金銭信託	267	100.00	267	100.00
合計	267	100.00	267	100.00

(注) 1. 共同信託他社管理財産については、前連結会計年度(平成28年3月31日)及び当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)のいずれも取扱残高はありません。
2. 元本補てん契約のある信託については、前連結会計年度(平成28年3月31日)及び当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)のいずれも取扱残高はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,500,000,000
計	2,500,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	875,521,087	同左	東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定のない、標準となる株式。単元株式数は1,000株。
計	875,521,087	同左		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年6月30日		875,521		145,069		122,134

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 53,818,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 817,590,000	817,590	
単元未満株式	普通株式 4,113,087		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	875,521,087		
総株主の議決権		817,590	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。また、「議決権の数」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権が2個含まれております。

2. 「単元未満株式」の欄には、当行所有の自己株式360株が含まれております。

【自己株式等】

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社千葉銀行	千葉市中央区千葉港 1番2号	53,818,000		53,818,000	6.14
計		53,818,000		53,818,000	6.14

(注) 株主名簿上は当行名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権1個)あります。なお、当該株式は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」に含まれております。

2 【役員等の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の変動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
2. 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）及び第1四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
現金預け金	1,397,413	1,738,965
コールローン及び買入手形	198,378	101,340
買現先勘定	4,999	14,999
債券貸借取引支払保証金	-	25,593
買入金銭債権	22,051	21,964
特定取引資産	182,592	320,675
金銭の信託	36,893	35,425
有価証券	2,455,700	2,436,887
貸出金	¹ 8,769,113	¹ 8,848,562
外国為替	2,596	5,465
その他資産	109,881	131,053
有形固定資産	101,971	102,338
無形固定資産	10,934	10,773
繰延税金資産	5,928	5,696
支払承諾見返	76,214	77,226
貸倒引当金	40,811	37,105
資産の部合計	13,333,858	13,839,863
負債の部		
預金	11,127,408	11,168,429
譲渡性預金	359,022	437,222
コールマネー及び売渡手形	134,500	526,500
債券貸借取引受入担保金	191,699	229,921
特定取引負債	22,905	37,178
借入金	268,485	225,898
外国為替	640	403
社債	107,545	101,692
その他負債	121,252	111,081
退職給付に係る負債	24,483	24,065
役員退職慰労引当金	166	113
睡眠預金払戻損失引当金	2,275	2,089
ポイント引当金	414	460
特別法上の引当金	27	22
繰延税金負債	19,349	19,340
再評価に係る繰延税金負債	11,069	11,069
支払承諾	76,214	77,226
負債の部合計	12,467,459	12,972,716

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
純資産の部		
資本金	145,069	145,069
資本剰余金	122,134	122,134
利益剰余金	524,817	537,530
自己株式	37,480	42,483
株主資本合計	754,540	762,249
その他有価証券評価差額金	103,921	97,306
繰延ヘッジ損益	231	361
土地再評価差額金	11,050	11,050
退職給付に係る調整累計額	3,861	3,655
その他の包括利益累計額合計	111,342	104,340
新株予約権	516	557
純資産の部合計	866,398	867,147
負債及び純資産の部合計	13,333,858	13,839,863

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
経常収益	60,447	62,025
資金運用収益	35,934	35,055
(うち貸出金利息)	27,120	26,494
(うち有価証券利息配当金)	8,012	7,676
信託報酬	0	0
役務取引等収益	11,841	11,774
特定取引収益	808	1,150
その他業務収益	888	1,243
その他経常収益	¹ 10,973	¹ 12,801
経常費用	34,316	35,442
資金調達費用	3,602	3,592
(うち預金利息)	1,290	1,039
役務取引等費用	4,330	4,428
特定取引費用	59	-
その他業務費用	180	87
営業経費	21,657	22,690
その他経常費用	² 4,486	² 4,643
経常利益	26,131	26,582
特別損失	13	114
固定資産処分損	13	114
税金等調整前四半期純利益	26,118	26,468
法人税、住民税及び事業税	5,997	4,877
法人税等調整額	2,415	3,126
法人税等合計	8,413	8,003
四半期純利益	17,704	18,464
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,704	18,464

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	17,704	18,464
その他の包括利益	7,302	7,002
其他有価証券評価差額金	6,845	6,576
繰延ヘッジ損益	521	593
退職給付に係る調整額	88	206
持分法適用会社に対する持分相当額	23	39
四半期包括利益	25,007	11,462
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	25,007	11,462

【注記事項】

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
破綻先債権額	2,784百万円	2,066百万円
延滞債権額	98,878百万円	94,831百万円
3カ月以上延滞債権額	1,790百万円	2,315百万円
貸出条件緩和債権額	44,728百万円	43,862百万円
合計額	148,182百万円	143,076百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
貸倒引当金戻入益	百万円	4,212百万円
償却債権取立益	1,010百万円	461百万円
リース子会社に係る受取リース料	3,281百万円	3,501百万円

2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
貸出金償却	537百万円	415百万円
貸倒引当金繰入額	225百万円	百万円
リース子会社に係るリース原価	2,883百万円	3,101百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
減価償却費	1,853百万円	1,966百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	5,829	7.00	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	5,751	7.00	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

当行グループは、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

1. 本項目は企業集団の事業の運営において重要なものとして記載しております。
2. 四半期連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金及び「買入金銭債権」中の信託受益権を含めて記載しております。

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債			
地方債			
短期社債			
社債			
その他	11,747	11,732	15
うち外国債券	8,130	8,118	11
合計	11,747	11,732	15

(注) 時価は、当連結会計年度末日における市場価格等に基づいております。

当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)

	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債			
地方債			
短期社債			
社債			
その他	10,761	11,156	395
うち外国債券	7,418	7,815	397
合計	10,761	11,156	395

(注) 時価は、当第1四半期連結会計期間末日における市場価格等に基づいております。

2. その他有価証券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	105,665	217,227	111,562
債券	1,456,177	1,477,103	20,926
国債	821,109	834,956	13,846
地方債	349,426	353,911	4,484
短期社債			
社債	285,640	288,236	2,595
その他	718,515	735,424	16,909
うち外国債券	539,573	542,080	2,507
合計	2,280,358	2,429,756	149,398

(注) 連結貸借対照表計上額は、国内株式及び国内投資信託については、当連結会計年度末前1カ月の市場価格の平均等に基づいて算定された額により、自行保証付私募債については、市場金利に予測デフォルト率を加味した利率で割り引いて算定された額により、また、それ以外については、当連結会計年度末日における市場価格等に基づく時価により、それぞれ計上したものであります。

当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	106,232	206,021	99,788
債券	1,474,019	1,499,669	25,650
国債	785,778	802,544	16,765
地方債	380,085	385,555	5,469
短期社債			
社債	308,155	311,570	3,414
その他	690,348	705,182	14,833
うち外国債券	508,704	513,355	4,650
合計	2,270,601	2,410,873	140,272

(注) 1. 四半期連結貸借対照表計上額は、国内株式及び国内投資信託については、当第1四半期連結会計期間末前1カ月の市場価格の平均等に基づいて算定された額により、自行保証付私募債については、市場金利に予測デフォルト率を加味した利率で割り引いて算定された額により、また、それ以外については、当第1四半期連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により、それぞれ計上したものであります。

2. その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)とするとともに、評価差額を当第1四半期連結累計期間(連結会計年度)の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

前連結会計年度における減損処理額は、62百万円(うち株式24百万円、社債等37百万円)であります。

当第1四半期連結累計期間における減損処理額は、株式247百万円であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分ごとに次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べ下落
要注意先	時価が取得原価に比べ30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べ50%以上下落又は、時価が取得原価に比べ30%以上50%未満下落したもので市場価格が一定水準以下で推移等

なお、破綻先とは、破産、特別清算、会社更生、民事再生、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは、実質的に経営破綻に陥っている発行会社であります。破綻懸念先とは、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは、今後の管理に注意を要する発行会社であります。正常先とは、上記破綻先、実質破綻先、破綻懸念先、及び要注意先以外の発行会社であります。

(金銭の信託関係)

本項目は企業集団の事業の運営において重要なものとして記載しております。

1. 満期保有目的の金銭の信託

前連結会計年度(平成28年3月31日)及び当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)のいずれも、該当事項はありません。

2. その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
その他の金銭の信託	7,579	7,579	

(注) 連結貸借対照表計上額は、当連結会計年度末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
その他の金銭の信託	6,077	6,077	

(注) 四半期連結貸借対照表計上額は、当第1四半期連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

(デリバティブ取引関係)

本項目は企業集団の事業の運営において重要なものとして記載しております。

(1) 金利関連取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	金利先物 金利オプション			
店頭	金利先渡契約 金利スワップ 金利オプション その他	1,901,747 8,111	3,104 2	3,104 2
	合計		3,102	3,102

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)等に基づきヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	金利先物 金利オプション			
店頭	金利先渡契約	1,966,435	2,966	2,966
	金利スワップ			
	金利オプション その他	7,812	1	1
合 計			2,964	2,964

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)等に基づきヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(2) 通貨関連取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	通貨先物 通貨オプション			
店頭	通貨スワップ	149,557	83	83
	為替予約	37,538	373	373
	通貨オプション	942	0	2
	その他			
合 計			456	459

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	通貨先物 通貨オプション			
店頭	通貨スワップ	228,521	100	100
	為替予約	37,104	730	730
	通貨オプション	4,808	8	4
	その他			
合 計			840	835

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の四半期連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

(3) 株式関連取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)

該当事項はありません。

当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	株式指数先物 株式指数オプション	26,411	1	0
店頭	有価証券店頭オプション			
	有価証券店頭指数等スワップ			
	その他			
合 計			1	0

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、該当ありません。

(4) 債券関連取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	債券先物	4,674	16	16
	債券先物オプション			
店頭	債券店頭オプション			
	その他			
合 計			16	16

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、該当ありません。

当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	債券先物	143,193	455	455
	債券先物オプション	47,233	24	0
店頭	債券店頭オプション			
	その他			
合 計			479	454

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。
なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、該当ありません。

(5) 商品関連取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)及び当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)のいずれも、該当事項はありません。

(6) クレジット・デリバティブ取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)及び当第1四半期連結会計期間(平成28年6月30日)のいずれも、該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	円	21.26	22.63
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	17,704	18,464
普通株主に帰属しない金額	百万円		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	17,704	18,464
普通株式の期中平均株式数	千株	832,769	815,681
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	円	21.23	22.61
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額	百万円		
普通株式増加数	千株	885	898
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要			

(重要な後発事象)

当行は、資本効率の向上をつうじて株主の皆さまへの利益還元の充実を図るため、平成28年8月4日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。

- (1) 取得対象株式の種類 当行普通株式
(2) 取得する株式の総数 12,000,000株(上限)
(3) 株式の取得価額の総額 5,000百万円(上限)
(4) 取得期間 平成28年8月5日から平成28年8月31日まで

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8月 4日

株式会社千葉銀行
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	南	波	秀	哉
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	久	保	暢	子
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	田	島		昇

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社千葉銀行の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社千葉銀行及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。